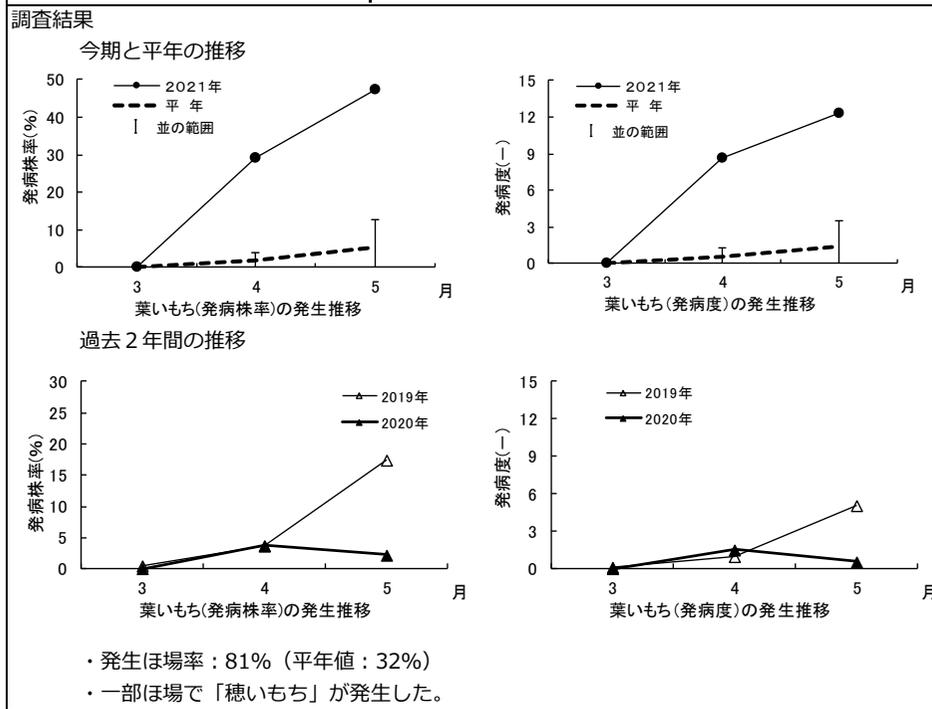


作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	いもち病		
調査結果	5 月の発生量（平年比） 多		
予報	5 月からの増減傾向		-
	6 月の発生量（平年比）		-



予報の根拠



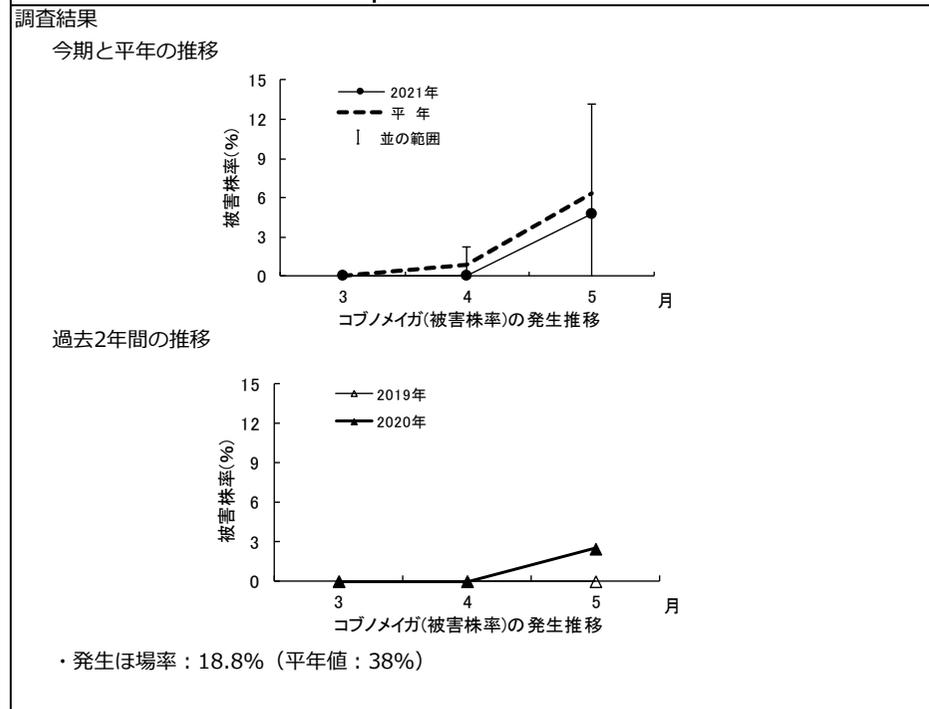
防除のポイント

- 収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- 汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	コブノメイガ		
調査結果	5 月の発生量（平年比） 並		
予報	5 月からの増減傾向		-
	6 月の発生量（平年比）		-



予報の根拠



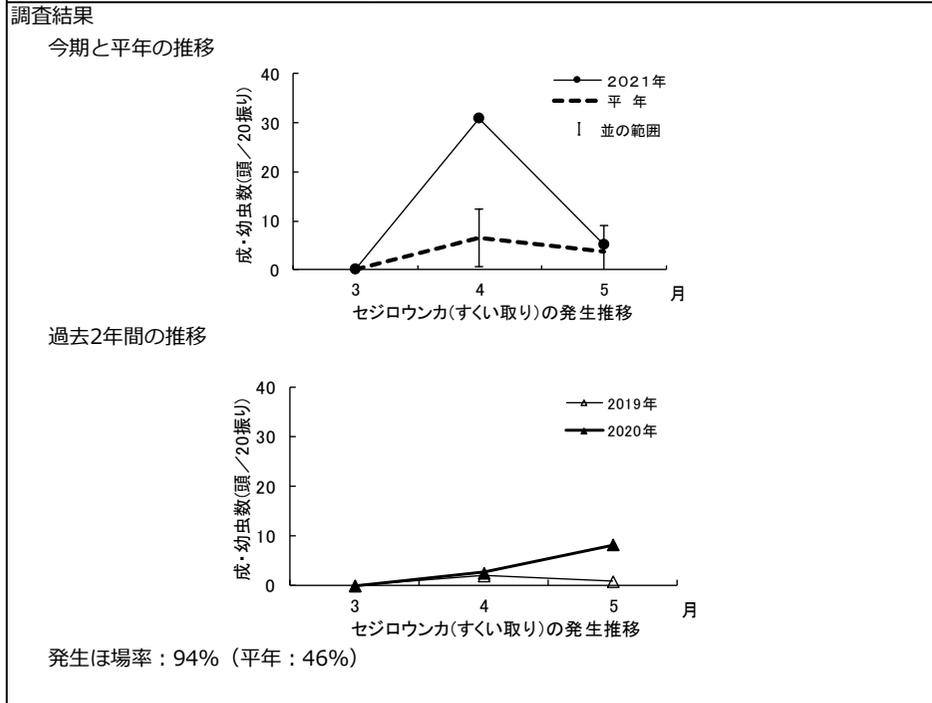
防除のポイント

- 次作に向けた密度低減を図るため、収穫後に畦畔および水田周辺の除草を行う。

作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	セジロウンカ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量(平年比)	—	



予報の根拠



防除のポイント

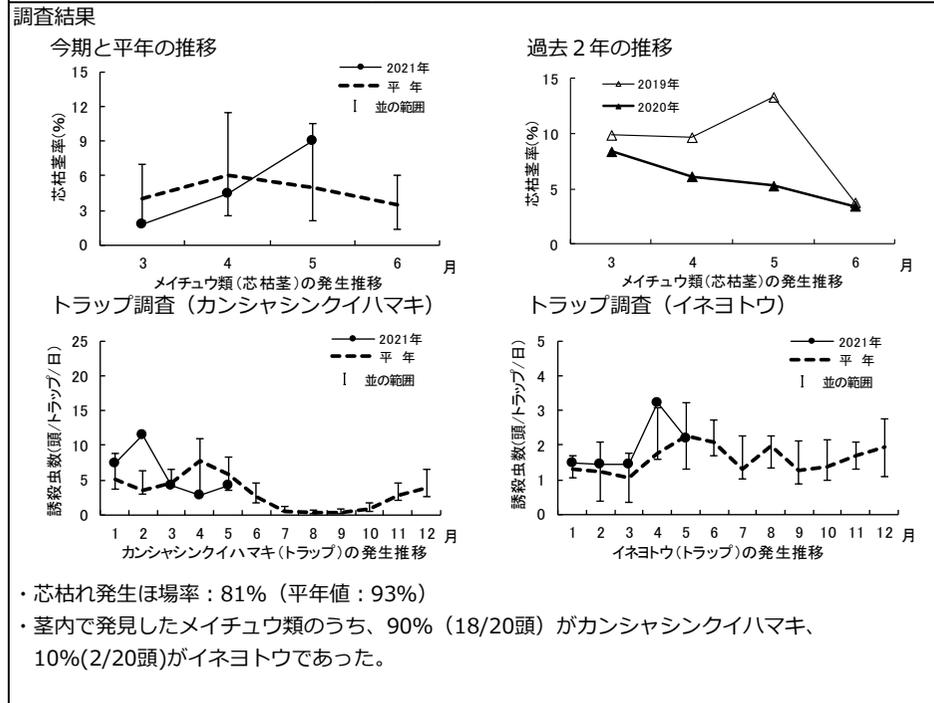
- ・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

作物	さとうきび	地域	八重山群島
病害虫名	① メイチユウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	↘	
	6月の発生量(平年比)	並	



予報の根拠

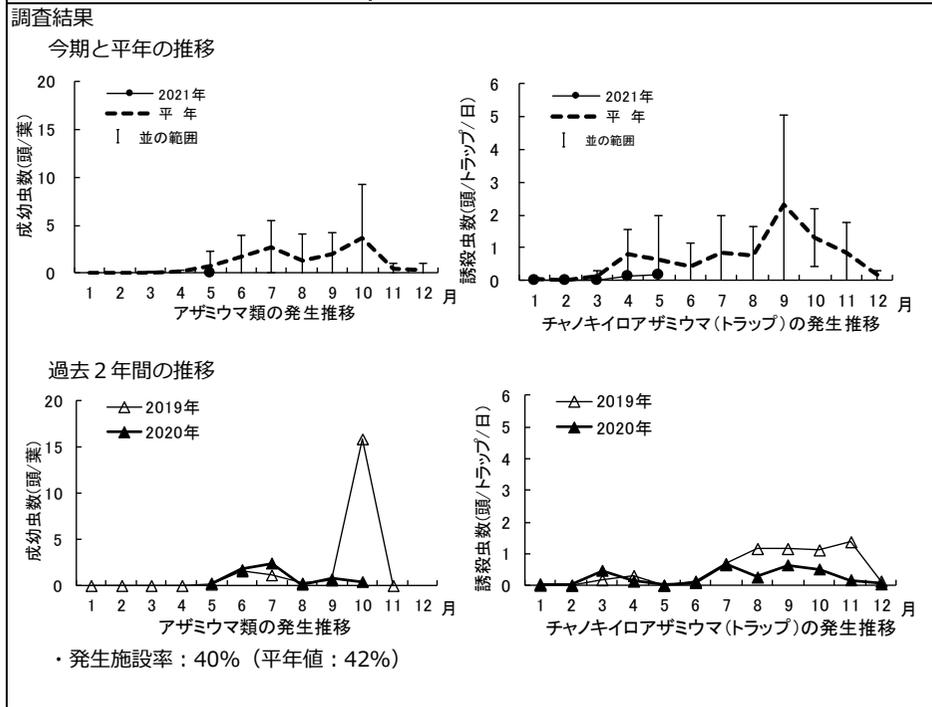
芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↘)



防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間には散らし降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (ノ)		

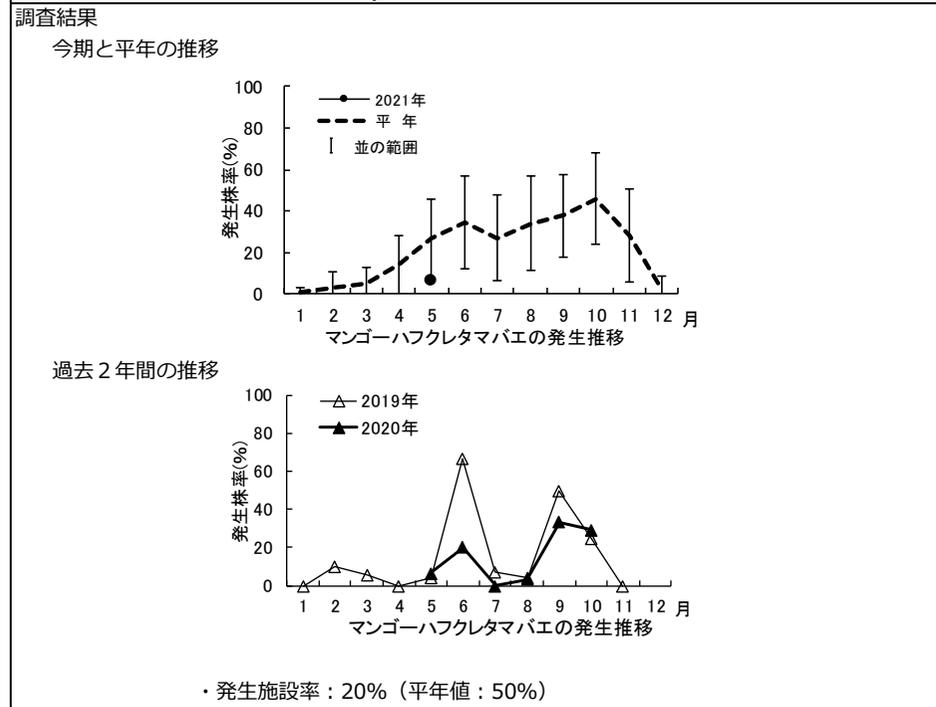


防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・多発施設では、収穫終了後に薬剤による防除を行う。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ナガエコミカンソウ 

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (ノ)		



防除のポイント

- ・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	



シユレイツメハダニ

予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)
-------	---------------

調査結果

今期と平年の推移

雌成虫数(頭/葉)

ハダニ類の発生推移

過去 2 年間の推移

雌成虫数(頭/葉)

ハダニ類の発生推移

- 発生施設率 : 40% (平年値 : 40%)

防除のポイント

- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症

作物	okra	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	多	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	多	



予報の根拠	平年の発生量の推移 (→)
-------	---------------

調査結果

今期と平年の推移

発病葉率(%)

うどんこ病の発生推移

過去 2 年間の推移

発病葉率(%)

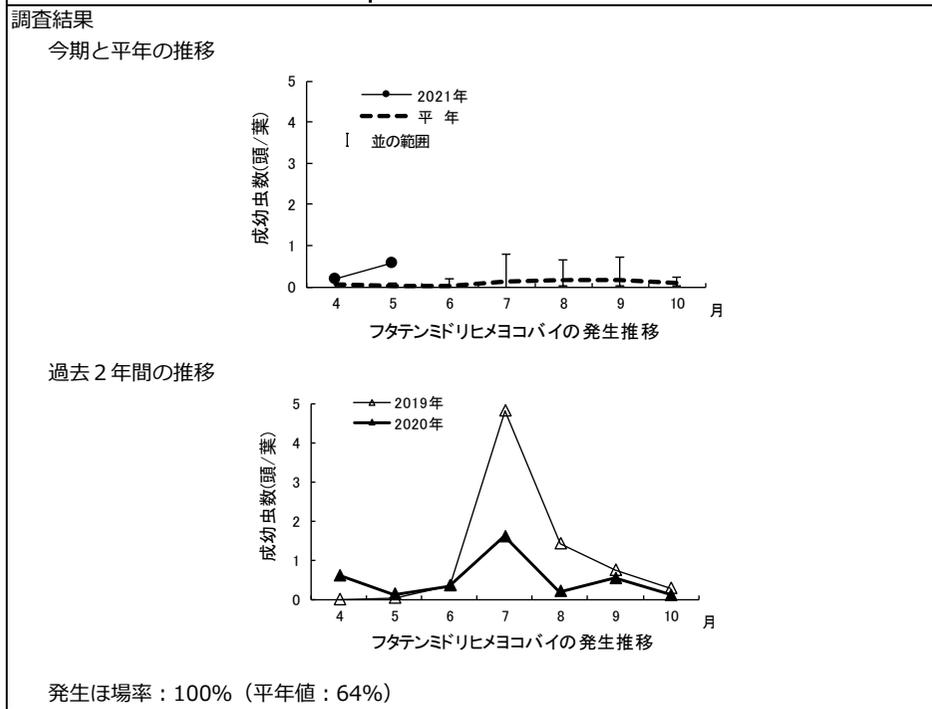
うどんこ病の発生推移

- 発生ほ場率 : 100% (平年値 : 65%)

防除のポイント

- 下位の罹病株や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- 窒素過多にならないようにする。
- 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

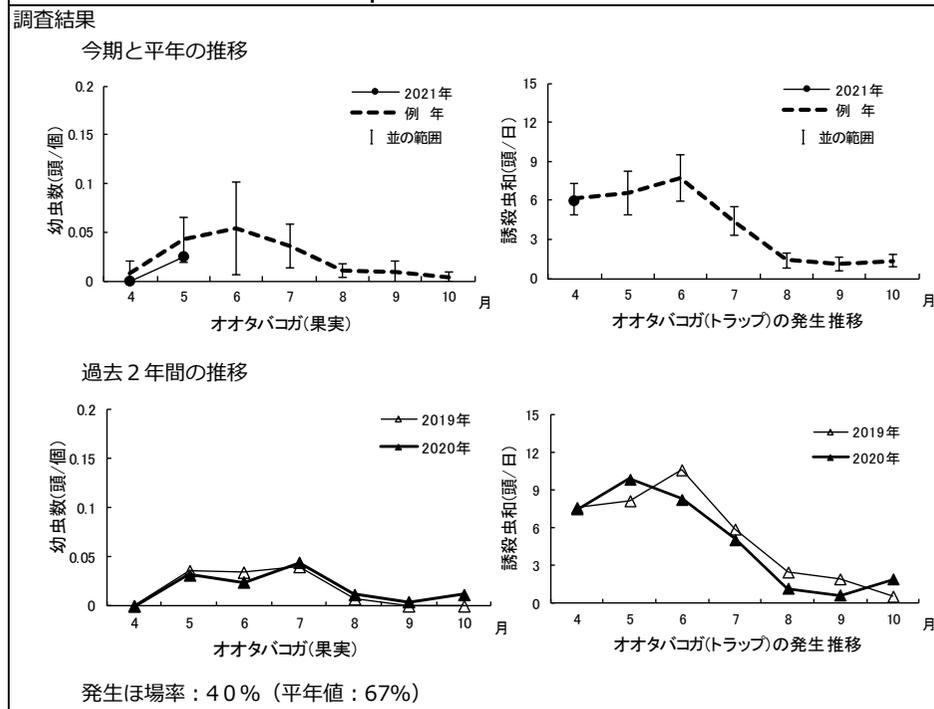
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	多	
予報	5月からの増減傾向	→	
	6月の発生量(平年比)	多	
予報の根拠		平年の発生量の推移(→)	



防除のポイント

- 多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

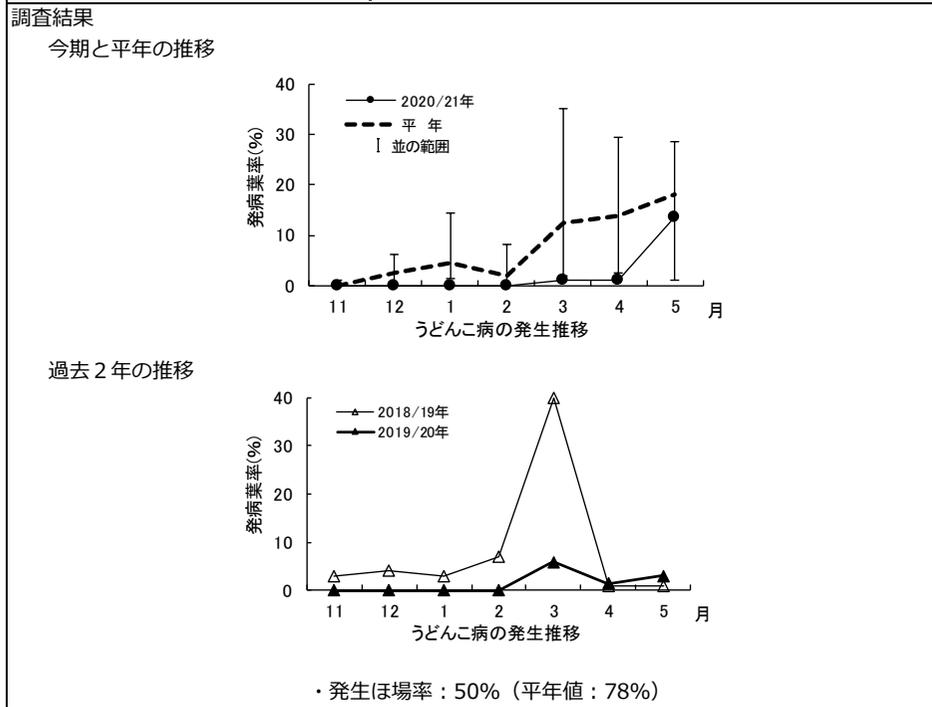
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ オオタバコガ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	↗	
	6月の発生量(平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移(↗)	



防除のポイント

- 発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- 葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- 被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

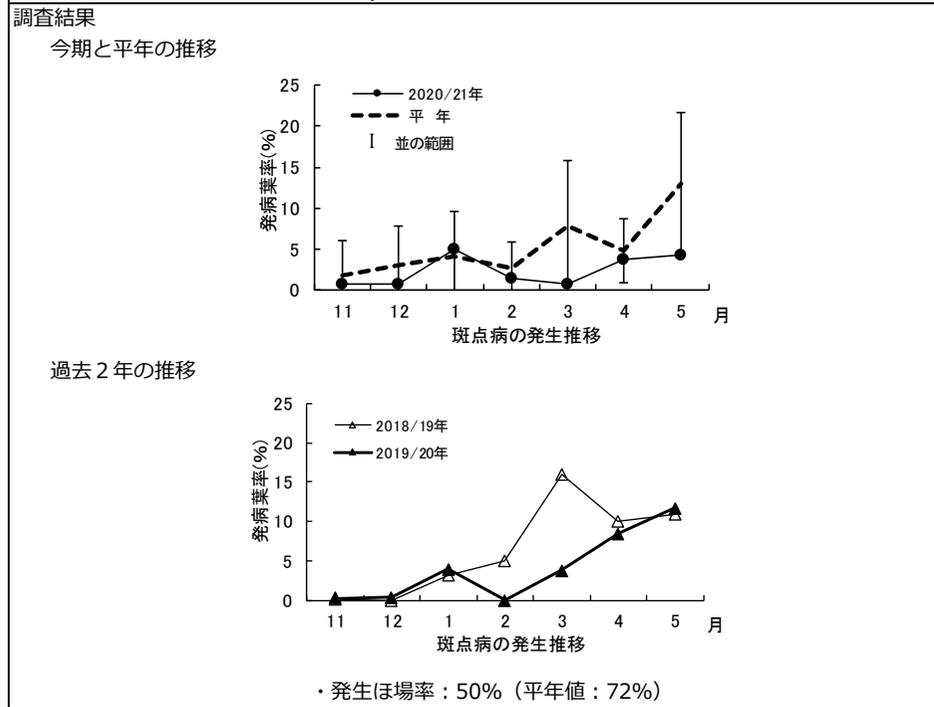
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			



防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

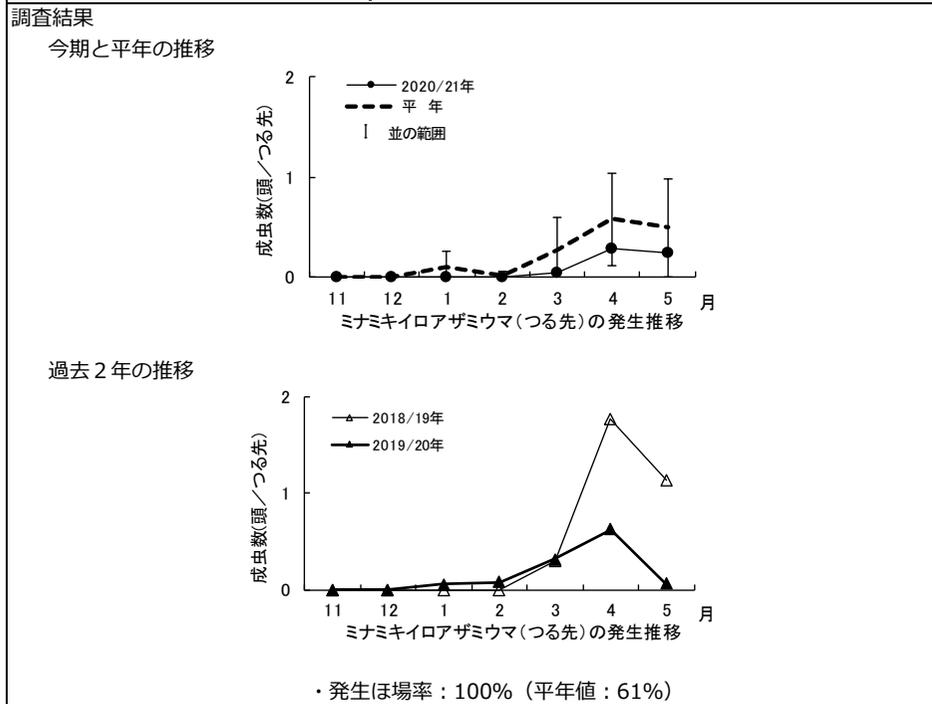
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	斑点病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			



防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	
予報	5月からの増減傾向	-	
	6月の発生量(平年比)	-	
予報の根拠			



防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.7ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

